

神経研究の進歩 総目次

1956年～1961年（1巻1号～5巻4号）

1962年～1963年（6巻1号～7巻2号）

1巻1号 '56年1月	売切
神経系疾患の診断法（Ⅰ）	
1巻2号 '56年4月	売切
神経系疾患の診断法（Ⅱ）	
1巻3号 '56年8月	売切
代謝障害と神経疾患（Ⅰ）	
1巻4号 '56年12月	売切
代謝障害と神経疾患（Ⅱ）	
2巻1号 '57年4月	売切
脳の生理に関するシンポジウム	
2巻2号 '57年10月	500円
脳腫瘍	
2巻3号 '58年3月	500円
第1回国際神経科学会展望（Ⅰ）	
2巻4号 '58年5月	売切
第1回国際神経科学会展望（Ⅱ）	
3巻1号 '58年10月	売切
第1回国際神経科学会展望（Ⅲ）	
3巻2号 '59年1月	売切
肝脳疾患（Ⅰ）	
3巻3号 '59年4月	1000円
肝脳疾患（Ⅱ）・小脳	
3巻4号 '59年9月	売切
錐体外路系（Ⅰ）	
4巻1号 '59年11月	売切
錐体外路系（Ⅱ）	
4巻2号 '60年1月	1000円
展望・脊髄血管障害例	
4巻3号 '60年8月	1000円
神経化学懇話会	
4巻4号 '60年8月	売切
興味ある症例の臨床と病理	
5巻1号 '60年10月	売切
神経病理懇話会	
5巻2号 '61年5月	売切
脳血管性障害（Ⅰ）	
5巻3号 '61年9月	1200円
脳血管性障害（Ⅱ）	
5巻4号 '61年12月	1000円
脳血管性障害（Ⅲ）・精神薬理	

5巻4号以前の内容の詳細については7巻2号以前の巻末総目次を参照してください。

'62年3月 6巻1号	1400円
脳炎・膠質細胞（第2回神経病理懇話会）	
神経膠細胞の培養……………中沢 恒幸	
追加討論……………米沢 猛	
組織細胞におけるグリア細胞の形態	
とくにその変態と増殖について……………中井準之助	
討論……………富永淳・他	
培養膠質細胞の細胞化学……………岡本 道雄	
討論……………中沢恒幸・他	
膠質細胞の電子顕微鏡的研究……………本陣 良平	
神経病理学の今昔談……………内村 裕之	
膠質細胞の組織及び組織病理……………辻山 義光	
討論……………三宅仁・他	
日本夏季脳炎の組織病理……………武谷 止孝	
追加討論……………松山春郎・他	
追加討論……………横井晋・他	
討論……………上村忠雄・他	
亜急性脳炎の病理……………飯塚 礼二	
討論……………白木博次・他	
脳炎封入体の組織化学……………山本達也・他	
討論……………猪瀬正・他	

'62年7月 6巻2号 1600円

小児神経病学

小児期における神経系の発達	
（生化学的方面）……………中 脩三	
分娩周辺期における神経病学……………馬場 一雄	
小児の髄膜炎、とくに化膿性	
髄膜炎の臨床……………有馬正高・他	
小児期における脳炎の成因と診断……………有馬正高・他	
急性灰白髄炎（ポリオ）……………南浦邦夫・他	
トキソプラズマ症……………瀬長良三郎	
新生児の脳出血……………田 章吾・他	
精神薄弱の病理……………室伏 君士	
精神薄弱の臨床……………小林 提樹	
乳幼児の脳外科手術に対する代謝反応……………長島 親男	
乳幼児の脳腫瘍……………佐野圭司・他	
小児てんかん……………和田 豊治	
汎発性脳硬化症及び近縁疾患……………向井紀二・他	
先天性筋無緊張症の本態について……………福山幸夫・他	
副甲状腺と中枢神経障害……………里吉營二郎・他	
脂質代謝異常による中枢神経障害……………里吉營二郎・他	

'62年11月 6巻3号

1400円

神経化学

〔巻頭言〕……………秋 元 波留夫

〔脳の特異物質〕

生体内特に脳内の Phenolic Amines

……………柿 本 泰 男

 α Methyl Dopa に関する研究……………尾崎 正若・他

THI-Euler 変法による Catechol

Amine 測定時, 阻害因子となる

“F 物質”(仮称)の存在と動態に

ついて(続報)……………勝木司馬之助・他

Reserpine 投与後の血中 Serotonin

量の増加と JB516前処置のこれに

及ぼす影響……………板東 丈夫・他

兎脳に於ける 5-HT 及び Substance

P の細胞内分布……………片岡 善由・他

改良チオコリン法による神経系の検

索(補遺)……………福 田 哲 雄

マウス脳の粒子性アセチルコリンに

ついて……………黒川 正則・他

脳におけるグルタミンの合成……………高 垣 玄吉郎

二, 三薬物の脳内注射によつて発現

する症状と脳グルタミン酸代謝……………斎藤 章二・他

〔神経疾患の生化学〕

アミノ酸代謝の研究アミノ酸及びア

ンモニアの脳内への移行に関する

研究……………沖中 重雄・他

精神神経疾患の脳脊髄液遊離アミノ

酸……………成瀬 浩・他

周期性四肢麻痺の Pathogenesis と

甲状腺の役割……………里吉宮二郎・他

てんかんの間脳機能—インシュリン

反応試験を中心に……………田中 善立・他

LSD 実験精神病に関する二, 三の

知見……………鳩谷 竜・他

〔神経化学の技術と方法〕

神経化学の方法……………塚 田 裕 三

脳代謝の動的観察—脳及び血中 PO_2 , PCO_2 , pH, Na, K の連続的記録……………後藤 文男・他

脳灌流の方法と問題点……………川 北 幸 男

脳灌流の方法とその問題点—脳灌流

装置について……………山崎晴一郎・他

脳灌流法の問題点……………河井 清・他

組織化学的研究方法の特異性及び限

界……………宇尾野公義・他

組織化学的方法の特徴と限界……………石 井 毅

〔行動の神経化学〕

行動変化に伴う脳内アンモニア, グ

ルタミン及びグルタミン酸代謝の

研究……………塚田 裕三・他

反復電気刺激, 無酸素条件による脳

機能の変動とその回復過程の研究……………高橋 良・他

諸減動状態におけるマウスの行動の

特性と脳内物質の刺激に対する

反応……………清水 俊郎・他

ep マウス及び慢性ヒロポン中毒マ

ウスの脳内電解質分布について……………平野 修助・他

Parabiosis による ep マウスの痙

攣阻止に関する研究……………森 昭胤・他

〔脳の機能と代謝〕

実験的 Methamphetamine 慢性投

与動物にみられる解糖抑制現象と

精神親和剤の及ぼす影響について……………伊藤 斉・他

中枢神経系の機能と代謝について……………小沢 俊次・他

スクレチオドおよびその関連物質と

けいれん……………平山 皓・他

脳酸溶性 Nucleotide に及ぼす中枢

神経抑制剤の影響……………斎藤 浩哉・他

切片および生体内における脳リン脂

質代謝の研究……………林 浩平・他

GABA, GABOB の中枢作用に対

する追試……………高坂 睦年・他

中枢神経機能とフラビン……………永津 俊治・他

迷路学習を指標とせるラッテ電気痙

攣ショックに及ぼす γ -アミノ酪酸

(GABA)の影響……………春 田 洋 一

運動その他による体液遊離アミノ酸

クロマトグラムの変動……………竹 原 一 雄

〔閉会の辞〕……………江 副 勉

〔原著〕末梢動脈疾患における交感神

経節の病理組織学的研究……………秋 山 洋

'62年11月 6巻4号

1300円

神経解剖

- 小脳—その Subdivision に就て ……武 田 創
 視床—大脳皮質との関係を中心にし
 て……………新 見 嘉兵衛
 脊髄オリブ路の経過について…………草 間 敏 夫
 グ リ ア……………細 川 宏
 辺 縁 系……………小池上 春 芳
 大脳皮質……………小 島 徳 造
 視床下部を中心とする形態学…………伴 忠 康
 シナプスの電子顕微鏡所見…………本 陣 良 平
 脳幹並びに脊髄における上行性伝導
 路……………久留 勝・他
 脊髄の比較解剖学に関する最近の
 二、三の問題点……………関 泰 志
 ニューロン説の生い立ち……………万 年 甫

'63年1月 7巻1号

1400円

脳 腫 瘍 (第3回神経病理懇話会)

- 〔開会のことば〕……………猪 瀬 正
 外科との関連における脳腫瘍の病理…景 山 直 樹
 脳腫瘍の組織培養……………佐 藤 文 明
 実験的脳腫瘍……………西 川 喜 作
 脳腫瘍の電顕像……………小 泉 準 三
 〔特別講演〕頭蓋内 Meningioma の
 臨床……………中 田 瑞 穂
 脳腫瘍の分類……………藤 田 哲 也
 〔あいさつ〕……………勝 又 正
 〔第3回神経病理懇話会抄録〕
 〔閉会のことば〕……………吉 村 義 之

'63年3月 7巻2号

1200円

神経疫学・診断検査法

〔神経疫学〕

- 紀伊半島における筋萎縮性側索硬化
 症の疫学……………楠 井 賢 造
 Epidemiological Studies on Multiple
 Sclerosis and Allied Diseases ……黒 岩 義五郎
 水俣病の疫学〔附〕水俣病多発地区
 に認められる脳性小児麻痺患者に
 ついて……………徳臣晴比古・他
 名古屋市における Motor Neuron
 Disease の疫学……………祖父江逸郎・他
 Apoplexy (脳卒中) の疫学 ……佐々木 直 亮
 新潟地区におけるてんかんの疫学…植 木 幸 明

〔診断検査法〕

- 小児の神経学的検査法—新生児・乳
 児を中心として……………馬 場 一 雄
 超音波パルス法による頭蓋内疾患診
 断……………田中 憲二・他
 誘発筋電図の基礎と臨床……………村 越 康 一

〔原 著〕

- 誘発筋電図の臨床的研究……………小 熊 勇 司
 水俣病におけるポルフィリン代謝に
 関する研究……………武 田 省 吾
 脳幹に主座をもつ亜急性播種性脳脊
 髄炎の1剖検例……………原田 憲一・他
 延髄・脊髄に著明な脱髄巣を認めた
 急性脱髄性脳脊髄炎の病理的考察…松 本 英 世
 痙攣脳電顕的研究(第1報)電撃
 痙攣家鶏雛の大脳皮質神経細胞像…本間 俊行・他

定価の明示してあるものは残部があります。
 ただし4巻以前のものは残部僅少ですので早目に御
 注文ください。